

## < 30 items for tomorrow > 介護心得に想うこと・・・(3)

介護老人福祉施設 真寿園  
施設長 小野塚 由美子

「介護心得」のルーツをたどってみました。私の記憶を遡ると、ある日の師長会（当時は婦長会）で、当時の看護部長から「会長から相談があり、現場の声が聴きたい（クレド、バイブルのようなものを作りたいようだ）」と議題に上がったことを思い出しました。なぜかその部分だけが鮮明に。それが何年頃だったかたどっていくと2000年（平成12年）前後だったようです。介護保険制度ができる前後、病院でも「接遇」という言葉が聞かれるようになっていた時代です。

### 3. 先入観で接しない、批判的態度をとらない

人間は、時に誰でも「思い込み」を持つことがあります。浅い知識や情報をもとに決めてかかることは、先入観となって介護のブレーキとなることがあります。また人は、ことの善悪、右か左か、ことさら白黒つけたがるものですが、ややもすると、これが批判的態度に移り変わるものです。心したいものです。

職業柄「思い込み」＝リスクと結びついてしまいますが、「思い込み」や「先入観」で接してしまうと、人間関係の害はあっても利は無いようにも感じています。私自身は、血液型B型でグレーゾーンが多い性格だと思っています。どちらかという、打てば響くタイプではなく、あとからゆっくりかみ締める感じです。こんな私ですので、今までどれだけ周囲の人に助けられてきたか計り知れません。批判も大事な意見だと思えます。会長が言いたかったのは、批判をするときでも相手を思いやる気持ちが大事だと言いたかったのではないのでしょうか。

写真は、入職直後に会長宅にあったバラ苗を頂き、どんな花を咲かせるか楽しみにしてから32年咲き続けてくれています。人の成長や育成も木や花に似ているなと感じています。

それでは、No. 4は 埼玉県地域リハビリテーション・ケア サポートセンターの岡持利亘センター長にバトンを繋ぎます(^\_^)

